

褥瘡発生率

- 分子

- 調査期間における分母対象患者のうち、d2以上の褥瘡の院内新規発生患者数
 - 包含
 - 院内で新規発生の褥瘡(入院時刻より24時間経過後の褥瘡の発見または記録)
 - 深さd2以上の褥瘡、深さ判定不能な褥瘡(DU)、深部組織損傷疑い

- 分母

- 入院延べ患者数(人日)
 - 除外 下記患者の入院日数
 - 日帰り入院患者(同日入退院患者も含む)
 - 入院時にすでに褥瘡保有が記録(d1,d2,D3,D4,D5,DU)されていた患者*1
 - 調査期間より前に褥瘡の院内発生(d1,d2,D3,D4,D5,DU)が確認され、継続して入院している患者*2

*1 院内での新規発生に限定

*2 すでに褥瘡が発生している患者群を除き、調査期間内に院内新規発生の可能性がある患者に限定

分母(入院延べ患者数)の算出方法

- 調査期間(例:9/1~9/30)の各患者の**入退院ごとの入院日数の合計**を算出
 - － 除外 下記患者の入院日数
 - 日帰り入院患者(同日入退院患者も含む)
 - 今回入院時にすでに褥瘡保有が記録(d1,d2,D3,D4,D5,DU)されていた患者
 - 今回調査期間より前(例:8/31以前)に、褥瘡の発生が確認(d1,d2,D3,D4,D5,DU)されている患者

分母・分子計算例①

例1:

患者Aの入院期間が7/1～11/30で、調査期間が9/1～9/30、褥瘡発生日が9/15の場合、分母に30、分子に1とする。

例2:

患者Aの入院期間が7/1～11/30で、調査期間が9/1～9/30、褥瘡発生日が8/15の場合、分母から除外、分子からも除外。

例3: (治癒して再度発生した場合、異なる部位に発生した場合等)

患者Aの入院期間が7/1～11/30で、調査期間が9/1～9/30、褥瘡発生日が8/15と9/15の場合、分母から除外、分子からも除外。

患者Aの入院期間が7/1～11/30で、調査期間が9/1～9/30、褥瘡発生日が8/15(d1)と9/15(d2以上)の場合も、分母から除外、分子からも除外

例4:

患者Bの入院期間が7/1～9/15で、調査期間が9/1～9/30、褥瘡発生日が9/10の場合、分母に15、分子に1とする。

よって、例1～例4のみ場合には分母は $30 + 15 = 45$ 、分子は $1 + 1 = 2$ となる。

参考資料

日本褥瘡学会

DESIGN-R(2008年改訂版褥瘡経過評価用)

Depth(深さ)	内容
d0	皮膚損傷・発赤なし
d1	持続する発赤
d2	真皮までの損傷
D3	皮下組織までの損傷
D4	皮下組織を超える損傷
D5	関節腔、体腔に至る損傷
DU	深さ判定が不能の場合

参考資料

NPUAPとの対応

d0,1 : Stage I

d2 : Stage II

D3:Stage III

D4,D5:Stage IV

DU : UNSTAGEABLE

International NPUAP-EPUAP Pressure Ulcer Guidelines

NPUAP / EPUAP Pressure Ulcer Classification System

ステージ I : Non-blanchable erythema

ステージ II : Partial thickness

ステージ III : Full thickness skin loss

ステージ IV : Full thickness tissue loss

Additional Categories for the USA

Unstageable/ Unclassified

Suspected DTI (DTI 疑い) : Suspected Deep Tissue Injury